

明治のしごと、平成のしごと —名勝保津峡を駆け抜ける鉄道インフラ—

京都駅を起点とする JR 西日本嵯峨野線(山陰本線)は、京都鉄道会社によって 1896(明治 29)年に起工され、翌 1897 年に京都駅から嵯峨まで、そして 1900(明治 33)年に園部までが開業された。その後、国有化されたが、依然として単線営業が続けられた。地域の大動脈である嵯峨野線は、京都府北部地域の人びとにとって複線電化は永年の夢であり、この強い要望に対して、京都府と国鉄(日本国有鉄道)は協力して工事に臨んだ。国鉄から民営化への時代の流れのなかで進められ、財政難も克服し、1989(平成元)年 3 月に嵯峨嵐山~馬堀間の念願の複線化が完成した。私たちは、100 年前の明治の工事の跡と、主としてロープウェイで工事を進めた名勝保津峡の中での工事の様子を振り返り、

利用者の声を聞くことによって、今さらながら鉄道インフラの大いなる意義を感じた。全国の鉄道もさまざまな歴史と課題を抱えながら、この国の経済・文化の発展と地域の人びとに役立っていることと思う。

Junior Report

京都鉄道会社誕生

明 治時代は鉄道が土木の花形であったと言われるほど、鉄道は日本産業の先駆であった。新しい土木技術も鉄道により磨かれたといってもよいだろう。その明治の鉄道ブームのなかで、京都鉄道会社は誕生した。設立者は、当時衆議院議員や貴族院を務めた京都府亀岡出身の田中源太郎氏である。そして、現在に至るまで、この鉄道に多くの人びとが携わって、多くの歴史が誕生したのである。

現 JR 西日本山陰本線と旧山陰本線

京都駅から、まだ単線区間に残る嵯峨野線に乗り換えて嵯峨嵐山へと向かった。この嵯峨野線は、複線化前は、乗客が少なかったと聞いていたが、途中の二条駅などからの乗客



写真-1 廃線になった旧山陰本線を走るトロッコ列車(提供:嵯峨野観光鉄道(株))

今月の Senior × Junior



Senior
田中輝彦 TANAKA Teruhiko

特別編集委員
(株)川嶋建設技術部長
社会開発システム工学専攻



Junior
山口由美子 YAMAGUCHI Yumiko

学生会員
学生編集委員
鳥取大学大学院 工学研究科



図-1 嵯峨野線の位置図

